



ショートコメント

★★★

Data 2022-111

# プリンセス・ダイアナ

2022年/イギリス映画

配給 STAR CHANNEL MOVIES/109分

2022 (令和4) 年10月1日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 0S

監督: エド・パーキンス  
出演: ウェールズ公妃ダイアナ / チャールズ皇太子 / エリザベス女王 / サラミ・パーカー＝ポウルズ

## 👁️👁️ みどころ

今年、パパラッチに追いかけられたダイアナ妃が死亡してから25年。そこで、『スペンサー ダイアナの決意』と本作が連続公開されたが、両者その出来は？

膨大な記録映像を大スクリーンで観るまでもなく、ダイアナ妃のお姫様のような魅力は明白。しかし、その裏にさまざまな確執と苦悩があったことは間違いない。しかし、今さらそれを映像で追っても・・・？

むしろ、エリザベス女王（2世）の96歳での大往生を考え、また英国王室の在り方を論ずることの方が、意味があるのでは・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆1997年8月31日に36歳で亡くなったダイアナ妃のドキュメンタリー映画を鑑賞した10月01日の土曜日、自宅に帰ると、夕刊で、プロレスラー・政治家のアントニオ猪木氏の訃報が報じられていた。彼が難病と戦っている姿は何度かTVで見たが、さすがに79歳で力尽きたらしい。同じ日に88歳で亡くなった、新党さきがけの創始者である武村正義氏や、2022年2月1日に89歳で亡くなった石原慎太郎氏等を含めて、彼らはみんなやるべきことをやった上で、天命を全うしての死だった。

しかし、パパラッチから追跡される中で、交通事故によってダイアナ妃が死んでしまったことは、まさに青天の霹靂だった。チャールズ皇太子との結婚、ウィリアム王子の誕生と、2人の結婚生活は幸せいっぱいに見えていたが、その実は・・・？

◆私はもともと日本の皇室にもイギリスの王室にもあまり興味ないが、2人の結婚を巡って俄然高まったイギリス王室の人気はすごかった。ダイアナ妃を狙うカメラが至るところに設置されると共に、彼女の周りにはカメラマンが群がり、ダイアナ妃をテーマにした雑誌が、次々と発刊された。そんな状況を見て私は、伝統あるイギリスも、意外に"ミーハー"が多いものだと考えていたが、パパラッチの急激な繁殖にはビックリ！そして、その過激

な取材競争の中、パパラッチの追跡から逃れる中で起きた死亡交通事故には、さすがにビクッリ！しかし、その中で浮かび上がってきた、夫婦の亀裂とは・・・？

◆外部から夫婦喧嘩を見ながら、何の責任もなくあれこれと言いたい放題にモノ申すのは、誰だって楽しいもの。それは、それ自体が、自分が持つさまざまな欲求不満のはけ口になるからだ。日本の皇室ウオッチャーの間では、近時、秋篠宮家・長女の眞子さまと小室圭氏との結婚問題があれこれ言われている。しかし、日本のマスコミは、政治家批判については言いたい放題やるくせに、皇室批判についてはなぜか（自己）抑制が効いている。

しかし、イギリスでは、不倫問題についての王室批判も自由で容赦ないから、チャールズ皇太子は大変だ。そんな中、過去に交際相手がいまま、お嬢様状態でチャールズと結婚した、一回りも年下のダイアナはどう対応すればよかったの？

◆ダイアナ妃がそれを容易に見つけることができなかったのは仕方ない。それだけならまだしも、マスコミの人气がダイアナ一色になる中、チャールズ皇太子の"嫉妬心"が強まると、昔からの恋人だった（？）カミラ夫人との仲が、復活するのは時間の問題・・・？弁護士生活50年近くになり、離婚相談を山ほど聞いてきた私は、そんなケースに接したことは何度もある。したがって、ダイアナ妃 VS チャールズ皇太子の離婚問題にも、格別興味はないから、そのドキュメンタリー映画たる本作にも興味なし。それなのに本作を観たのは、一種の日程調整、時間調整のためだが、情報整理に役立ったことは間違いない。

しかし、なぜ今、こんなドキュメンタリー映画が作られたの？それは、今年がダイアナ妃の死亡から25年の節目になるためだが、今年はまだ『スペンサー ダイアナの決意』が連続公開されるので興味がある人は是非、ドキュメンタリー作たる本作と対比を！

◆本作には、当然ながらチャールズ皇太子とダイアナ妃の結婚を祝福するエリザベス女王の姿も登場する。そのエリザベス女王が96歳で亡くなったことを受けて、イギリスでは9月19日に盛大な国葬が行われた。私はその儀式にはあまり興味はないが、それを契機に、改めて在位70年間も続けたエリザベス女王（2世）と、スペインの無敵艦隊を破り、大英帝国の礎を築いたエリザベス女王（1世）との対比ができたのは、大いに勉強になった。エリザベス1世を描く映画は『エリザベス：ゴールデン・エイジ』（07年）（『シネマ18』174頁）等をはじめとしてたくさんあるが、エリザベス2世が亡くなった今、彼女に焦点を当てた映画が今後たくさん作られるだろう。

ダイアナ妃を巡っては10月14日から『スペンサー ダイアナの決意』が公開されるが、ハッキリ言って私は、それよりもエリザベス2世を描く映画の方に期待したい。そんなこんな感想も含めて、本作の出来はイマイチで星3つ。

2022（令和4）年10月3日記